

秋田県における高校3年生の性意識と性行動（第2報）

志賀くに子¹⁾ 羽入雪子²⁾ 伊藤榮子³⁾

A Research on Sexual Consciousness and Behavior of the Third Year High School Students in Akita. (Second Report)

Kuniko SHIGA Setsuko HANYU Eiko ITO

要旨：

この研究は、秋田県内6校の高校3年生男子122人、女子451人を対象に性行動と性意識について調査し全国的調査の結果と比較した第2報である。今回は、性意識・性行動に加えて性の悩みの相談や現代の性状況についての考えなど、全国調査にない質問内容についても集計している。結果を以下に示す。1) 異性の体に触りたいという性意識や性的興奮、ペッティングの経験、異性の体に触ったことなどの性行動について、本県の高校生は全国調査よりも高い。2) 性的被害の経験は女子の方が高く、全国調査比較では性的誘いを受けた男子が高い。3) 伝統的男女の役割観に男女とも否定するものが全国調査結果より多い。4) 性に関する悩みの相談相手を専門家に求め、さらに性産業の現状に対しても約半数が問題意識を持っている。

キーワード：秋田県高校3年生、性意識、性行動

Summary：

This is the second report on the research into sexual consciousness and behavior of 122 male and 451 female high school students who are seniors (12th graders) of 6 high schools in Akita. Research results are compared with those of nationwide report given by JASE (The Japanese Association for sex Education). Items newly added this time are consultation on their worries about sex and their opinions on a trend of sexual consciousness and behavior today. We got some finding from the inquiry: 1) Their desire of touching at bodies of the other sex, sexual consciousness or excitement, petting experiences, and sexual behaviors of touching at the bodies of the other sex are on the average more frequent than those of JASE's investigation. 2) The number of female subjects who have had harmful sexual experiences is larger and sexual temptation that the male subjects have been led into is more than JASE survey's. 3) The number of both male and female subjects who denied traditional gender roles in societies is larger than JASE's. 4) About half of the subjects have wanted consulting specialists in sexual education and regarded so-called sexual industries as having caused social problems.

Key words : senior students in high schools in Akita, sexual consciousness and behavior

緒言：

高校3年生は青年期中期にあたり性的充実期にはいる。そして、性衝動や異性への接近欲が具体的な形をとるようになり、身体的、精神的に悩むことが多くなる。この時期の性意識や性行動の調査結果は多く報告されている。性教育や性行動に関する全国平均の指標は日本性教育協会の調査

(以下JASEと略す)¹⁾によるものである。

本研究の第1報²⁾では、生活環境、性意識とその背景、性交経験について報告したが、今回は、「性意識・性行動」、「結婚観」、「男女の役割観」に加え、JASEの調査内容には含まれていない「性の悩みの相談」、「性状況」についてを報告する。

看護学科 1) 助手 2) 講師 3) 教授

I. 調査目的

秋田県における高校3年生の性意識・性行動、結婚観、男女の役割観、性の悩みの相談及び性状況への考えを把握し、その問題点と今後の課題を検討する。

II. 研究方法

1. 調査対象：秋田県内の高等学校のうち進学校、実業高校を除いて県北、中央、県南からそれぞれ2校選び、合計6校中の高校3年生男子122人、女子453人。有効回答者男子122人、女子451人で合計573人を秋田県内の高校生とした。
2. 調査期間：平成8年10月2日～10月18日
3. 調査方法：財団法人日本性教育協会が実施している「青少年の性行動調査用紙」に一部質問項目を加えたものを用いての質問紙法
4. 調査実施時の留意事項：プライバシー保護の為、無記名による回答とし、教員が見ることなく直接返送用封筒に回収する方法
5. 分析方法：男女間で χ^2 検定を用いた。全国調査との比較はJASEの調査報告（1994年）を用いた男女別の比較

III. 調査結果

1. 性意識・性行動

「異性に近づきたい」「性的関心」「異性の体に触りたい」「キスしたい」と思ったことがあるかどうかについては、男子が女子よりも高い ($p < 0.05$) (表1)。

表1. 性行動・性意識. 人 (%)

質問内容	男子n=122人	女子n=451人	
異性に近づきたいと思ったことがある	108 (88.5)	351 (77.8)	**
デートの経験がある	56 (45.9)	228 (50.6)	
性的関心をもったことがある	110 (90.2)	313 (69.4)	**
異性の体に触りたいと思ったことがある	112 (91.8)	173 (38.4)	**
異性の体に触ったことがある	55 (45.1)	94 (20.8)	**
性的興奮を感じたことがある	111 (90.9)	171 (37.9)	**
キスしたいと思ったことがある	76 (62.3)	229 (50.8)	*
キスの経験がある	37 (30.3)	149 (33.0)	
ベッティングの経験がある	45 (36.9)	101 (22.4)	**
自慰の経験がある	101 (82.8)	37 (8.2)	**

* $p < 0.05$

** $p < 0.01$

性行動においても、「異性の体に触ったことがある」「性的興奮を感じたことがある」「ベッティングの経験がある」「自慰の経験がある」についてが、男子が女子より高い ($p < 0.05$)。

JASEとの比較 (JASEの値は以降 [] 内に示す) は、「異性の体に触りたい」男子91.8 [81.0] %、女子38.4 [32.2] %、「異性の体に触ったことがある」男子45.1 [33.2] %、「性的興奮の経験がある」男子90.9 [81.1] %、女子37.9 [30.4] %、「ベッティングの経験がある」男子36.9 [18.2] %、女子22.4 [16.5] %が、いずれも秋田県的女子高校生の方が高い ($p < 0.05$)。

性的被害の経験については、「体をじろじろ見られた」「言葉でからかわれた」「電車などで身体を触られた」において女子が男子より高い ($p < 0.05$)。JASEとの比較では、全項目において秋田県的女子の方が性的被害の経験が少ない。また、「性的な誘いを受けた」は、秋田県の男子高校生 [6.4%] が高い ($p < 0.05$)。性的誘いを受けた相手は、男子では「友人」「身近な人」「知らない人」の順で多く、女子では「知らない人」「友人」「身近な人」の順で多い (表2)。

表2. 性的被害の経験. 人 (%)

	男子n=122人	女子n=451人	
体をじろじろ見られた	12 (9.8)	143 (31.7)	**
言葉でからかわれた	25 (20.5)	135 (29.9)	*
電車などで身体を触られた	9 (7.4)	85 (18.8)	*
性的な誘いを受けた	18 (14.8)	86 (19.1)	
性的な行為を要求された	11 (9.0)	62 (3.7)	
暴行を受けた	3 (2.5)	12 (2.7)	

* $p < 0.05$

** $p < 0.01$

「友人と性の話をしょっちゅうする」は、男子23.0 [25.4] %、女子8.6 [16.3] %で男子が高く、女子はJASEより低い ($p < 0.05$)。「たまに話をする」は、男子61.5 [51.8] %、女子67.8 [63.6] %で男子はJASEより高い ($p < 0.05$)。「友人の性的経験が気になるか」については、「とても気になる」男子19.7%、女子12.4%で男子が高い。「少し気になる」男子50.8%、女子51.9%で差はない。

「テレホンクラブに電話をかけたことがあるか」については、「ある」男子7.4%、女子22.8%と女子が高く ($p < 0.01$)、「アダルトビデオを見たことがあるか」には、「ある」男子78.7%、女

子34.6%で男子が高い（ $p < 0.01$ ）。

2. 結婚観と男女の役割観

結婚については、「いずれしたい」が半数以上を占め、男女において有意差はない（表3）。

表3. 結婚観. 人 (%)

	男子n=122人	女子n=451人
早く結婚したい	19 (15.6)	98 (21.7)
いずれしたい	64 (52.5)	229 (50.8)
しなくてもよい	23 (18.9)	70 (15.5)
したくない	2 (1.6)	13 (2.9)
わからない	12 (9.8)	30 (6.7)

男女の役割観について「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考えには、「そう思う」が男子6.6 [16.1] %、女子2.4 [5.6] %で男子が低く、男女ともJASEより低い（ $p < 0.05$ ）。「思わない」は、男子 [26.1%] 女子 [35.8%] とともにJASEより高い（ $p < 0.05$ ）（表4）。

表4. 男女の役割観. 人 (%)

	男子n=122人	女子n=451人	
そう思う	8 (6.6)	11 (2.4)	*
どちらかといえばそう思う	34 (27.9)	96 (21.3)	
どちらかといえばそう思わない	23 (18.9)	118 (26.2)	
思わない	53 (43.4)	219 (48.6)	

* $p < 0.05$

3. 秋田県内で性に関する悩みを相談できる場所について

1) 悩みを相談できる場所

「秋田県内で性に関する悩みを相談できる場所を知っていますか」には、「知っている」は男女とも1%以下であり、「知らない」がほとんどである。（図1）。

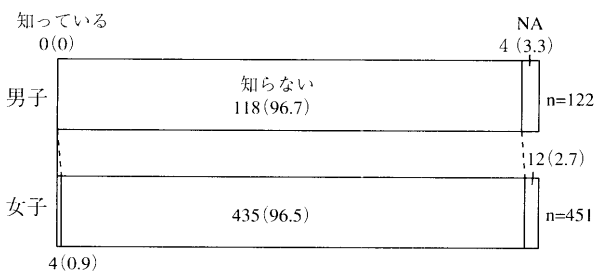
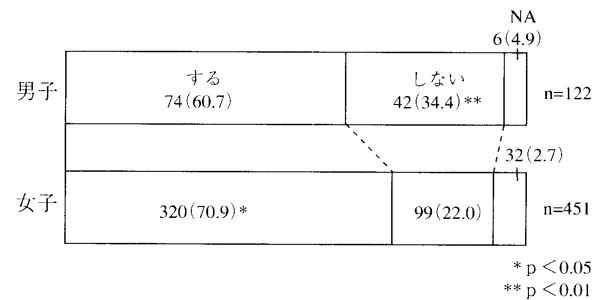


図1 悩みを相談できる場所 人 (%)

2) 相談できる場所の設置の希望

「気軽に性に関する悩みを相談する手段や場所を多く設置することを希望しますか」には、「希望する」男子60.7%、女子70.9%で女子が高く（ $p < 0.05$ ）、「希望しない」は男子が高い（ $p < 0.01$ ）（図2）。また、相談場所を希望しない理由としては、男女とも「必要ない」「相談することがない」「他人には相談しない」「友人に相談する」「恥ずかしい」の順に高い。



* $p < 0.05$
** $p < 0.01$

図2 相談できる場所の設置の希望 人 (%)

3) 相談内容

「もしその施設を利用するとしたら、どんな内容の相談で利用しますか」には、男子は①恋愛28.7%、②性病23.8%、③性器・避妊について10.7%の順に高く、女子は①妊娠26.8%、②月経18.0%、③恋愛について17.1%の順に高い（表5）。

表5. 相談内容. 人 (%) (複数回答)

	男子n=122人	女子n=451人	
月経	4 (3.3)	81 (18.0)	**
性病	29 (23.8)	69 (15.3)	*
妊娠	10 (8.2)	121 (26.8)	**
性器	13 (10.7)	24 (5.3)	*
自慰	5 (4.1)	6 (1.3)	*
恋愛	35 (28.7)	77 (17.1)	**
避妊	13 (10.7)	59 (13.1)	
その他	9 (7.4)	12 (2.7)	*
N A	31 (25.4)	77 (17.1)	*

* $p < 0.05$

** $p < 0.01$

4) 相談相手の職種

相談相手の職種には、男子は①カウンセラー34.4%、②医師20.5%、③看護婦・助産婦・保健婦15.6%の順に高く、女子は①看護婦・助産婦・保健婦51.9%、②カウンセラー33.5%、③養

護教諭8.4%の順に高い(表6)。

表6. 相談相手. 人(%) (複数回答)

	男子 n=122	女子 n=451
教師	3 (2.5)	1 (0.2)
養護教諭	4 (3.3)	38 (8.4)
看護保	19 (15.6)	234 (51.9)
医師	25 (20.5)	17 (3.8)
カウンセラー	42 (34.4)	151 (33.5)
その他	9 (7.4)	4 (0.9)
N A	27 (22.1)	41 (9.1)

* p<0.05

5) 相談相手に選んだ理由

「それは何故ですか」には、養護教諭では「話しやすい」が、看護婦・助産婦・保健婦では「同性だから」、医師では「専門家だから」が、またカウンセラーでも「心の問題だから」「専門家だから」という理由が多くあげられている。

4. 現代の性の状況に関する自分の考え

1) 性産業における女性の商品化

「今の性産業(アダルトビデオやソープランドなど)は女性を商品化しているため問題である」には、男女とも約半数近くが「思う」と答えている。「思わない」とした男子は17.2%で女子の10.4%より高い(p<0.05)。「考えたことがない」は男女とも約35~40%である(図3)。

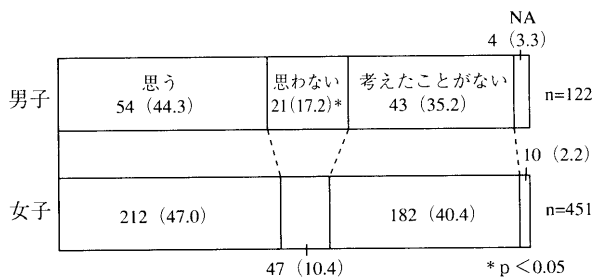


図3 性産業における女性の商品化 人(%)

2) 露骨な性描写の氾濫

「雑誌や漫画に露骨な性描写が載っているのは問題だと思う」には、男女とも約半数が「思う」と答えている。「思わない」は男子19.7%、女子12.2%で男子の方が高い(p<0.05)。「考えたことがない」は、男子26.2%、女子35.7%で女子の方が高い(p<0.01)(図4)。

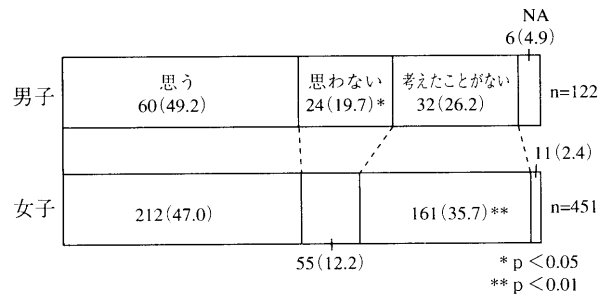


図4 露骨な性描写の氾濫 人(%)

3) 大人の性に対する性教育の必要性

「性教育は若い世代だけでなく、大人の人にも必要だと思う」には、男女とも半数以上が「思う」と答えている。「考えたことがない」は、男女とも32~33%である(図5)。

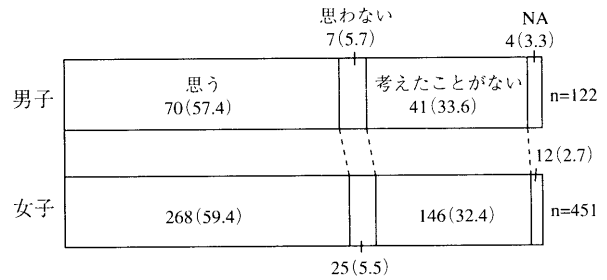


図5 大人の性に対する性教育の必要性 人(%)

4) 性の知識と態度の習得

「性に対して自分なりのしっかりとした知識と態度を身に付けたいと思う」には、男女とも70%以上が「思う」と答えている。「考えたことがない」は、男子18.9%、女子21.5%である(図6)。

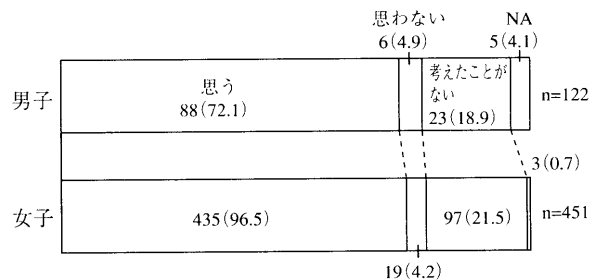


図6 性の知識と態度の習得 人(%)

5) エイズやSTDは自業自得

「エイズやその他の感染症(淋病・梅毒・クラミジアなど)にかかる人は自業自得だから自分には関係ないと思う」には、「思う」は男子28.7%、女子9.1%で男子の方が高く(p<0.01)、「思わな

い」は男子43.4%、女子66.1%で女子の方が高い (p<0.01)。「考えたことがない」は、男女とも22~24%である (図7)。

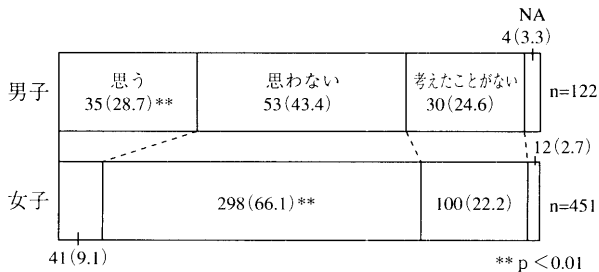


図7 エイズやSTDは自業自得 人(%)

6) 性の受け入れ

「自分の性を肯定的に受け入れている方だと思う」には、「思う」は男子73.0%、女子55.2%で男子が高い (p<0.01)。「考えたことがない」は、男子18.9%、女子31.9%で女子の方が高い (p<0.01) (図8)。

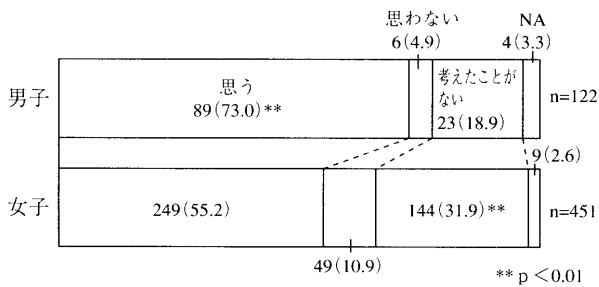


図8 性の受け入れは肯定的か 人(%)

7) 性に関する勉強意欲

「自分はこれから性に関することを勉強していきたいと思う」には、男女とも42~43%が「思う」と答えている。「考えたことがない」は、男女とも45~47%である (図9)。

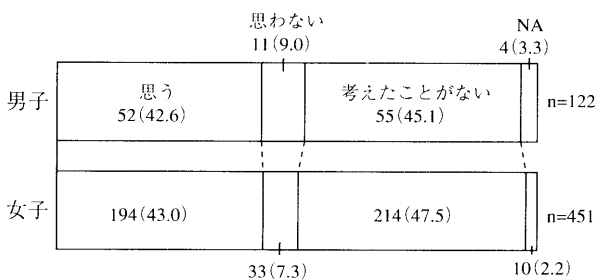


図9 性に関する勉強意欲 人(%)

IV. 考察

1. 性意識・性行動

JASEによると「異性に近づきたい」という異性接近欲は、中学生頃から盛んになり20歳まで上昇していく。男女差はほとんどなく、1987年に比べ1993年の調査結果の方がやや上まっている。秋田県の高校生は、男子の方が異性接近欲が高く、異性接触欲やキス欲求は、JASEと同じで男子が女子より高かった。実際の性行動を見るとキス経験の他は、すべて男子の方が経験率が高かった。キス欲求では男子の方が高いが、キス経験は女子の方が高いのはJASEの調査でも同様の傾向であり、性交経験率と並んで女子の性に対する態度の積極的傾向がわかる。JASEとの比較で「異性の体に触りたい」「異性の体に触ったことがある」「性的興奮の経験がある」「ペッティングの経験がある」が、秋田県の高校生の方が有意に高いということは、全国レベルより性行動が積極的であることを意味する。秋田県の高校3年生の身長と体重は全国で1位と2位である(平成8年調査)³⁾。体格の発達には身体の成熟を促進させ⁴⁾、いろいろな性行動を引き起こす⁵⁾ことから、このような体格の発達が性行動の積極化と関連すると考える。

性的被害については、全国レベルよりその経験が少ないが、男子より女子の方が性的被害にあっていている。近年、セクシャル・ハラスメントや子供の性的虐待の問題が真正面から取り上げられることが多くなった。しかし、残念なことに、性被害について真剣に取り上げられ論じられた結果を一般に人々が目にするのはあまりない。これは性被害の定義を、①強姦や強制わいせつなどの刑法犯罪として、②児童福祉法や青少年保護育成条例違反など福祉犯の被害、③性的イタズラや軽犯罪の対象となる性被害の総称を持つるために、それぞれがまとめられて報告されないことに原因があると島崎氏は述べている⁶⁾。秋田県内においても約2~3割の者が性的被害の経験があることは、大きな社会問題として捉えなければならない。

アダルトビデオの視聴率に関する都性研(東京都幼・小・中・高・心障性教育研究会)1993年の調査⁷⁾では、高校生男子79.6%、女子38.4%、1996年の調査では、高校生男子81.5%、女子50.9%がアダルトビデオを見ている。秋田県の高校生は、著者らの調査²⁾によると、自分一人の部屋とテレビ、ビデオの両方を保有するものが多く、性に関する行動や意識に影響を与えるものとして

「ビデオ」が高率であった。この結果からも、アダルトビデオの視聴率が高いことは理解できるが、体の成熟と共に性的関心・欲求が高まるわりには、性役割や性同一性などに関する意識は未熟な時期であるという不安定な状況を考えると決して良い影響は与えないのではないだろうか。ビデオの内容規制やレンタルシステムなど、われわれ大人が問題意識を高めていく必要がある。

「テレクラに電話したことがある」は、都性研の調査では、高校生男子8.3%、女子43.6%であるのに対し、秋田県の高校生は男子7.4%、女子22.8%であった。性産業はテレクラの他にダイヤルQ²、伝言ダイヤル、ツーショットダイヤル、デートクラブ、ブルセラショップなど様々で、中高生の利用が社会問題になっている。このような環境の中で自分はどうか考え行動するかについて話し合い、考える場を早期に性教育の内容に取り入れていく必要がある。

2. 結婚観と男女役割観（ジェンダー・ロール）

結婚では、「年齢にこだわらないがいずれしたい」が半数以上を占めるのは、JASEと同じ傾向である。しかし、男女の役割観では「男は外で働き女は家庭を守るべき」の役割分担に反対する者がJASEより多い。今後、世の中の仕組みや多くの情報に接し社会的経験を重ね、健全な社会性の発達を遂げることが望ましい。

3. 秋田県内で性に関する悩みを相談出来る場所

秋田県において高校生が悩んだときの相談窓口としてテレホンサービスが開設されている。また、医療施設でも外来診療として窓口が設けられている。性に関する悩みでテレホンサービスを利用する人は非常に少なく、まれと言ってよいほどである。施設の利用状況は調査していないが、決して多くはないと予測できる。高校生の約96%がその存在を「知らない」と答えている現状が利用状況に反映していると思われるが、原因としては学校関係へのPR不足や高校生自身が相談することへの遠慮、抵抗が考えられる。「気軽に相談できる場所の設置を希望する」者が約60~70%もいることから、学校や地域社会及び関連諸機関との連携が求められている。例えば現在ある相談場所のPRを広報やテレビなどのメディアを利用して行うなどして、利用者にとって身近な存在にしていくことが必要である。また、「希望しない」

理由の「恥ずかしい」「他人には相談しない」を参考に、プライバシーの保護のための場所と方法を考慮しなければならない。相談相手の職種としては男子ではカウンセラーを、女子では看護婦・助産婦・保健婦に次いでカウンセラーを上位に上げており、「恋愛」や「妊娠」などについて相談したいことから、身体的な悩みと共に心理的な悩みを相談したいという高校生らのニーズが把握できた。

4. 現代の性の状況に関する考え

現代の性をとりまく状況に関する自分の考えについては、質問項目により男女に有意差がみられたが、男女とも約半数が「性産業における女性の商品化」や「露骨な性描写の氾濫」、「大人への性教育の必要性」に問題意識を持っていることがわかった。また、「自分自身の性に関する知識と態度の習得」に対し、約70%が前向きな姿勢である。

「性に対して自分なりのしっかりとした知識と態度を身に付けたい」と答えた者が約70%いるのに対し、「これから性に関することを勉強していきたい」と答えた者は42~43%と低く、「勉強していくことを考えたことがない」は45~47%もいる。「知識と態度は身に付けたい」気持ちはあるが、「勉強をしていく」という行動には結びつかないことから、性に関する諸問題を自分のこととして考えられない危機感の少なさが伺われる。

現代の社会には、次から次へと性風俗産業が出没してきており、雑誌、テレビなどのマスメディアの情報提供も商業主義の意図の濃さが目につく。このような環境におかれている高校生の性意識や性行動には否応なく影響が及ぼざるを得ない。著者らの第一報によれば²⁾、「性に関わることで自分に影響を与えているもの」として「友人」に次いで、「ビデオ」「漫画やコミックス」「新聞や雑誌の記事」「テレビ・ラジオ」などが多いことから、彼らがマスメディアから大きな影響を受けていることは明らかである。

著者らの調査²⁾によると、高校生らは男女とも大半の生徒が性教育を受けていたが、それが役に立った者は半数に満たない。また、性の悩みを教師にはほとんど相談していない実態を見ると、学校での性教育が彼らのニーズを満たしておらず、性教育のあり方に問題があることが伺われる。彼らが性に関する問題を解決する能力を養うためにも、高校生らのニーズを分析し知識の伝達のみなら

ず、情操教育を含めて性への認識を深め、適切な判断や意志決定ができる教育内容・方法を検討していく必要がある。また、学校における性教育の充実を図るだけでなく、家庭、地域の3つの分野が連帯し、性教育や性の相談業務の充実も図っていかねばならない。さらに、この社会を構成している我々大人達も問題意識をもち、「性」への認識を深めていく必要がある。

V. 結論

今回の調査により以下のことが明らかになった。

1. 異性の体に触りたいという性意識や性的興奮、ベッチングの経験、異性の体に触ったことなどの性行動について、本県の高校生は全国調査よりも高い。
2. 性的被害の経験は女子の方が高く、全国調査比較では性的誘いを受けた男子が高い（男性同士の性的嫌がらせも含む）。
3. 伝統的男女の役割観を男女とも否定するものが全国調査結果より多い。これは、伝統的な男女の役割観にとらわれない若い世代がでてきたことを示している。
4. 性に関する悩みの相談相手を専門家に求め、さらに性産業の現状に対しても約半数が問題意識を持っている。従って、約半分の者が健全な高校生の在り方をしてしているとみることができる。

以上のことから、青年期の特徴が最も顕著に示される時期である高校生の心身の成長発達の現状をふまえ、責任ある行動がとれるようにするために、「性に関する問題」は何か、学校の教職員、保護者、地域（医療機関を含む）の方々の各分野で果たすべきことは何かを明確にし、それらに対する解決すべき方策を立て実践するための協力体制を確立する時期にきていると考える。

本調査に御協力いただきました秋田県の高校生に感謝いたします。

注) ジェンダーとは「社会文化的な性」で、生まれ育つ過程で社会的に付与された男性、女性それぞれの在り方をいう。ジェンダー・ロールとは、「性役割」とか「性別役割」と訳され、これは固定的なものではなく基本的にその社会の、文化のありようによって育てられるものである⁸⁾。

文献

1. 財団法人日本性教育協会編：青少年の性行動一わが国の中学生・高校生・大学生に関する調査報告一，財団法人日本性教育協会，1994.
2. 羽入雪子他：秋田県における高校3年生の性意識と性行動（第1報），日本赤十字秋田短期大学紀要，1，p69～76，1996.
3. 平成8年度学校保健統計調査結果、秋田県企画調整部情報統計課
4. 本多洋：新版看護学全書 母性看護学Ⅰ，p141～142，(株)メヂカルフレンド社，1997.
5. 間宮武，松本清一監修：性教育マニュアル，p175，(株)大成出版社，1991.
6. 島崎継雄：性被害の状況と性をめぐる価値観や意識，現代性教育月報，13（1）. p10～13，1995.
7. 東京都幼・小・中・高・心障性教育研究会編：児童・生徒の性 最新版，学校図書，1996.
8. 村瀬孝治編著：ニュー・セクソロジー・ノート，p16，東山書房，1996.